

# アメリカの高等教育専攻の 大学院プログラムについて

ボストンカレッジ大学院教育学研究科高等教育専攻博士課程学生  
Center for International Higher Education  
(国際高等教育センター) リサーチアシスタント 新見有紀子  
SHIMMI Yukiko

キーワード： 高等教育研究、大学院プログラム、人材育成

## はじめに

近年、世界的に高等教育に対する関心が高まっている。高等教育機関に入学する人々の割合は、日本のみならず、先進国や新興国を中心に世界的に増加しており、高等教育と社会の関わりが増してきている。また、急激な技術革新やグローバル化といった変化の激しい時代に対応できる人材を育成することに関しても、高等教育への社会的期待は高まっている。このような背景を受けて、高等教育機関を取り巻く環境を理解し、直面する課題に有効に取り組んでいくことが求められており、高等教育を対象とした研究や、高等教育機関の運営に携わるアドミニストレーターの役割がますます重要になってきている。

現在、アメリカには、高等教育を専攻とする大学院プログラムが200程度存在している (Association for the Study of Higher Education, 2012)。これは、世界の他の国々と比較しても、その数で他の国々を圧倒している (Altbach, Bozeman, Janashia, & Rumbley, 2006)。これらのプログラムは、高等教育研究を担う研究者や、高等教育機関で働く実務家の養成において、大きな役割を果たしている。本稿では、アメリカにおいて発展した、高等教育専攻の大学院プログラムについて、その歴史的背景や現状、特徴などについてご紹介させて頂く。

## 1. 高等教育専攻の大学院プログラムの発展

アメリカでの高等教育専攻の大学院プログラムの発展の歴史は、1893年にクラーク大学 (Clark University) において、初代学長のスタンレー・ホールが高等教育に関する初の大学院レベルの授業を提供したことにさかのぼる (Burnett, 1973)。当時は、主に教員を対象として、アメリカやヨーロッパの高等教育を取り巻く課題に関する話題や、大学教育や大学組織に関する内容などが授業で扱われた (Goodchild, 1991)。その後、このような高等教育に関する大学院レベルのコースは全米各地の大学へゆっくりと広がっていったが、急激に増加することになるのは、戦後になってからである (Burnett, 1973)。

アメリカでは、1950年代後半から1960年以降、高等教育機関に入学する学生数の増加と、その予算の拡大に伴い、高等教育機関の組織と運営が急激に複雑化した

(Dressel & Mayhew, 1974)。そのため、その運営の効率化や改善のために、高等教育機関を対象とする研究の重要性が高まり、学内にインスティテューショナル・リサーチ (IR) を担当する部署を設置する大学が増え、大学外部にも、連邦政府、州政府、民間組織等をはじめとして、高等教育に関する政策の立案や高等教育機関の評価を実施するための機関が設置された (Burnett, 1973; Dressel & Mayhew, 1974)。高等教育専攻の大学院プログラムは、それらの機関で働く研究者を養成する役割を果たしながら数を増やしていった (Burnett, 1973; Dressel & Mayhew, 1974)。そして、高等教育機関の拡大と複雑化の流れの中、その運営に携わるアドミニストレーターにも、より高度で専門的な知識やスキルが求められるようになり、高等教育専攻の大学院プログラムは、次第に、そのようなアドミニストレーターの専門性を高めるための機会を提供する場を担うようになった (Goodchild, 1991)。

## 2. 多様な高等教育専攻の大学院プログラムと、学際的な高等教育研究

アメリカの高等教育専攻の大学院プログラムは、その多様化が進んでいる (Harris, 2007; Wright, 2007)。例えば、国家レベルの高等教育行政への関与を視野に入れて教育を行うプログラムがある一方、主に地元の高等教育機関の運営に携わる職員の育成に焦点を当てているものもある。また、プログラムの卒業生として、大学教員、研究者、又は、アドミニストレーターのいずれかの養成に力を入れている場合や、またそれら全ての養成を幅広く目指している場合もある。修士、博士学位のどちらかのみ、又は、両方を提供するプログラムもある。高等教育機関の運営に特化した経営や法務管理などの専門性を養成するため、ビジネススクールや、ロースクール等と組んでダブルディグリーを提供するプログラムもある。近頃では、インターネットを利用して、通学をせずに履修できるコースも存在している。

このような高等教育専攻の大学院プログラムは、教育学関連の研究科の中に設置されていることが多いが、高等教育に関する研究は、経済学、政治学、社会学、心理学、人類学など、社会科学系の様々なアプローチを取り入れて行う学際的な分野である。このような側面は、高等教育研究で扱う領域や、その将来的な発展の可能性を広げることにつながる一方、高等教育研究に特化した方法論が確立されていないという課題も指摘されている (Altbach, 2006)。アメリカにおける高等教育研究に関する学術的なコミュニティとしては、1976年に、Association for Studies of Higher Education (ASHE) が発足、1981年には、全米の教育分野最大の学術コミュニティ American Educational Research Association (AERA) の中に高等教育部門が公式に設立されている (Townsend, 1990)。これらの組織は、年次大会の開催や学会誌の発行などを通じて、全米や世界からの研究者や実務家に研究発表やネットワークの場を提供している。これらの高等教育研究一般に関する学術コミュニティに加えて、更に専門的な内容に特化した学術コミュニティも存在する。

### 3. 高等教育アドミニストレーションの専門職化

近年、アメリカにおいては、高等教育専攻の大学院プログラムが、専門職化の進む高等教育アドミニストレーターの養成に果たす役割が大きくなってきている。変化が激しく、将来の予測が難しい時代において高等教育機関を効果的に運営するためには、そこで働くアドミニストレーターの専門性の向上と、リーダーシップ能力の養成が欠かせない (Murell & Davis, 1991)。それに加え、アドミニストレーター自身の、クリティカルシンキングや、問題解決能力、不確実性や矛盾への寛容性、そして、倫理観を高めることの重要性も指摘されている (Murell & Davis, 1991)。そのようなアドミニストレーターの育成には、オン・ザ・ジョブ・トレーニング (職業内訓練) や、短期的なワークショップなどだけでは限界があり、アメリカでは大学院レベルの教育が一般的になりつつある (Goodchild & Fife, 1991)。アメリカでは高等教育機関におけるアドミニストレーターとしての職を得るために修士学位が、また管理職や上級職、専門職などには博士学位が求められるようになってきている。

高等教育専攻の大学院プログラムには、高等教育機関における人事、財務、法務など、幅広い意味でのアドミニストレーターを養成することを目指すプログラムが存在する一方、そのサブフィールドとして、特に高等教育機関に特有の業務を行う学生担当職員 (Student Affairs) 養成に焦点を絞ったプログラムが存在感を増している。また、高等教育専攻の大学院プログラムの卒業生は、高等教育機関におけるインスティテューショナル・リサーチ (IR) 部門で働く人も多い。その他にも、ファンドレイジング、コミュニティカレッジ運営、国際部門などに特化した知識や技術を身につけ、それぞれの領域で実務家として活躍する人も多い。以下に、高等教育専攻のサブフィールドとしての学生担当職員 (Student Affairs) と、インスティテューショナル・リサーチ (IR) に関して少し詳しく触れたい。

#### サブフィールド1：学生担当職員 (Student Affairs)

高等教育アドミニストレーションに関連したサブフィールドとして、学生担当職員 (Student Affairs) の養成に特化したプログラムが増えている。学生担当職員は、高等教育機関に特有の業務である学生のガイダンスや、カウンセリングを担当し、課外活動や、寮生活などを通じた授業外の教育的プログラムの開発なども行う。アメリカの高等教育機関では、学生担当職員は専門職として、新入職員の段階でも修士号を保持していることを求める場合が多くなっているようである。アメリカの学生担当職員に特化した大学院プログラムで近年扱われる話題としては、学生のバックグラウンドの多様化、公共政策の変化とそれが学生担当業務に与える影響、学生の学びを効果的にするための大学のキャンパス環境の整備、大学院生や専門職課程の学生を対象とした支援、大学生の教育と学習成果や評価、大学の国際化に関連した学生支援などが挙げられる (Dungy & Gordon, 2010; Nuss, 2003)。学生担当職員に特化した学術的なコミュニティも存在し、Student Affairs Administrators in Higher Education (NASPA) や、American College Personnel Association (ACPA) などがその代表である。大学の学生担当職員は、学生を個人として理解し、またそれぞれの大学の理念に従って、大学生活全般にわたる効果的な支援の提供に重要な役割を果たしている。

## サブフィールド2：インスティテューショナル・リサーチ（IR）

高等教育アドミニストレーションの大学院プログラムに関連したもう一つのサブフィールドとして、インスティテューショナル・リサーチ（IR）にも言及したい。IRは、限られた資源の有効活用を目的として、高等教育機関に関するあらゆるデータを評価、査定、分析する部門である。高等教育機関のIR担当は、例えば、学生の学習成果の測定、財務管理、高等教育機関の運営に欠かせない戦略の策定、他機関との比較、アカウンタビリティの向上に資するための資料の作成や分析を行う。高等教育専攻の大学院プログラムの修了生の中には、高等教育関連の知識や質的・量的な研究手法などを活かし、このようなIRを担当する部門において活躍している人も多い。高等教育のIR分野においては、Association for Institutional Research（AIR）が学術的なコミュニティとしてネットワークの場を提供している。近年は、特にアメリカにおいて、高等教育に関する公的な予算が限られる中で、効果的な高等教育機関としての研究・教育活動を行っていくために、IRの重要性が注目されている。

### 4. 高等教育専攻の大学院プログラムの授業内容とカリキュラムの特徴

高等教育専攻の大学院プログラムの授業内容について、Fife（1991）は、以下6つのカテゴリーに整理している。①高等教育に関連した学問的な内容（高等教育の歴史や、高等教育の哲学など）。②高等教育のアドミニストレーション（財務や法務などを含む一般的なアドミニストレーションスキル、学生担当、IR、ファンドレイジング、高等教育に関する理論として組織論、意思決定論、学生の発達理論など）。③高等教育に関連する特定のフォーカス（カリキュラム、教員、学生、教育など）。④現代の高等教育に影響を与える課題（比較教育、国際教育、多様性、入試、ITなど）。⑤高等教育機関の中の特定のセクター（コミュニティカレッジ、生涯学習など）。⑥研究関連（研究手法、プログラムの評価、研究計画書など）。このような内容が一般的に扱われる一方、高等教育専攻の大学院プログラムの多様化が進む中で、大学ごとに特色をもった授業の構成がなされている。

また、高等教育専攻の大学院プログラムのカリキュラムでは、理論と実践、学術と実務を結びつける工夫がなされている。Fife（1991）によっても説明されているが、高等教育専攻の大学院のカリキュラムの特徴としては、高等教育に関連した理論的、また概念的な知識についての理解を深めるための授業（高等教育の改革戦略、大学生の発達理論、高等教育の組織論など）とともに、それらを実際のケースに応用する訓練が行われている。また、高等教育機関でのインターンシップなどを通じて、実務経験を積む機会も組み込まれている。高等教育専攻の大学院では、研究手法についての理解も深めるが、これは、研究者として必須のスキルを養うと同時に、アドミニストレーターを目指す場合であっても、優れた研究に関する感覚を磨き、研究のプロセスを理解することによって、高等教育機関において研究を効果的に支援する上で役に立つと考えられる（Fife, 1991）。

アメリカの高等教育専攻の大学院プログラムは、主にアメリカ国内の高等教育を前提としている場合が多く、入学する学生のほとんどがアメリカ人であるという印象がある。私が所属するボストンカレッジでは、高等教育の国際的な側面に関した教育・

研究も行っているため、そのような分野に興味を持つ留学生やアメリカ人も入学しているが、アメリカ全体としては、このような国際的な視点を提供するプログラムは限られているようである。大学によっては、高等教育と国際比較教育に関する別々の大学院プログラムが提供され、どちらかの専攻の学生として所属しながら、もう一方の専攻の授業を履修することが出来る場合もあるようである。アメリカの高等教育専攻における留学生は、人数的にはそこまで多くはないものの、アメリカに残って高等教育機関等で IR 担当やアドミニストレーターとして働くケースや、高等教育政策などに関わる国際機関などで働くケース、また、本国に戻り高等教育に関する専門家として活躍するようなケースなどがあるようである。

## 5. 世界での広がり

高等教育専攻の大学院プログラムは、アメリカ以外でも提供されている。例えば、イギリス、オーストラリア、カナダなどの国々や、最近は特に、中国における高等教育研究の拡大と、大学院プログラムの広がりが指摘されている(Altbach et al., 2006; Wang, 2010)。日本においても、東京大学大学院教育学研究科の大学経営・政策コース、広島大学大学院教育学研究科の高等教育開発専攻、桜美林大学大学院大学アドミニストレーション研究科などにおいて、高等教育の分野に特化した大学院プログラムが提供されている。現在、私の所属しているボストンカレッジの国際高等教育センターでは、世界における高等教育専攻の大学院プログラムの広がりについての調査を行っており、本稿執筆時点では調査中の段階ではあるが、前回報告(Altbach et al., 2006)と比べ、高等教育専攻の大学院プログラムは、世界各地で少しずつ増えてきているという印象がある。(※最終的な調査結果については、ボストンカレッジ国際高等教育センターホームページ <http://www.bc.edu/cihe>にて今年中を目処に報告予定である。)

## おわりに

本稿では、アメリカにおける高等教育専攻の大学院プログラムの発達の背景と現状をご紹介させて頂いた。アメリカの高等教育専攻の大学院プログラムは、高等教育機関に関しての様々な調査分析を行う研究者の育成と、その機関の運営を担うアドミニストレーターの育成に大きな役割を果たしている。変化の激しい時代を背景に、高等教育への期待がますます高まる中、アメリカや世界において高等教育に関する学術研究と大学院プログラムは今後も重要な役割を果たしていくのではないだろうか。

## 参考文献

- Altbach, P. G. (2006). Research and training in higher education: The state of the art. In P. G. Altbach, L. A. Bozeman, N. Janashia, & L. E. Rumbley (Eds.), Higher education: A worldwide inventory of centers and programs (Revised Edition., pp. 1-21). Rotterdam, The Netherlands: Sense Publishers.
- Altbach, P. G., Bozeman, L. A., Janashia, N., & Rumbley, L. E. (2006). Higher education: A worldwide inventory of centers and programs (Revised Edition.). Rotterdam, The Netherlands: Sense Publishers.

- Association for the Study of Higher Education. (2012). Directory of higher education programs. Retrieved June 5, 2013, from [Higher Education Program Directory](#)
- Burnett, C. W. (1973). Higher education as a specialized field of study. *Journal of Research and Development in Education*, 6, 4-15.
- Dressel, P. L., & Mayhew, L. B. (1974). Higher education as a field of study: The emergence of a profession. San Francisco, CA: Jossey-Bass Publishers.
- Dungy, G., & Gordon, S. A. (2010). The development of student affairs. In J. H. Schuh, S. R. Jones, & S. R. Harper (Eds.), *Student services: A handbook for the profession* (5th ed., pp. 61-79). John Wiley & Sons.
- Fife, J. D. (1991). Course offerings in higher education doctoral programs. In J. D. Fife & L. F. Goodchild (Eds.), *Administration as a profession* (pp. 77-86). San Francisco, CA: Jossey-Bass Publishers.
- Goodchild, L. F. (1991). Higher education as a field of study: Its origins, programs, and purposes, 1893-1960. In J. D. Fife & L. F. Goodchild (Eds.), *Administration as a profession* (pp. 15-32). San Francisco, CA: Jossey-Bass Publishers.
- Goodchild, L. F., & Fife, J. D. (1991). Conclusion. In J. D. Fife & L. F. Goodchild (Eds.), *Administration as a profession* (pp. 115-118). San Francisco, CA: Jossey-Bass Publishers.
- Harris, M. S. (2007). The current status of higher education programs: Findings and implications. In D. Wright & M. T. Miller (Eds.), *Training higher education policy makers and leaders: A graduate program perspective* (pp. 33-42). Charlotte, NC: Information Age Publishing.
- Murrell, P. H., & Davis, T. M. (1991). Visions and priorities: The future of higher education doctoral programs. In J. D. Fife & L. F. Goodchild (Eds.), *Administration as a profession* (pp. 103-114). San Francisco, CA: Jossey-Bass Publishers.
- Nuss, E. M. (2003). The development of student affairs. In S. Komives & D. B. Woodard (Eds.), *Student services: A handbook for the profession* (4th ed., pp. 65-88). San Francisco, CA: Jossey-Bass Publishers.
- Townsend, B. K. (1990). Doctoral study in the field of higher education. In J. C. Smart (Ed.), *Higher education: Handbook of theory and research* (Vol. IV, pp. 161-199). New York, NY: Agathon Press.
- Wang, X. (2010). Higher education as a field of study in China: Defining knowledge and curriculum structure. Lanham, MD: Lexington Books.
- Wright, D. (2007). Progress in the development of higher education as a specialized field of study. In D. Wright & M. T. Miller (Eds.), *Training higher education policy makers and leaders: A graduate program perspective* (pp. 19-34). Charlotte, NC: Information Age Publishing.